

統計の眼

世界的に増加するFSCの認証森林

近年、適切に管理されている森林からの林産物を求める声が高まっており、持続可能な森林経営の実現に向けた対応策の一つとして、森林認証制度が注目を集めている。

森林認証制度には、ISO(国際標準化機構)やFSC(森林管理協議会)等の国際的な取組みだけでなく、欧州森林認証制度やCSA(カナダ企画委員会)認証、全米森林・紙協会のSFI認証、インドネシアでの取組み等ローカルレベルの認証制度もある。

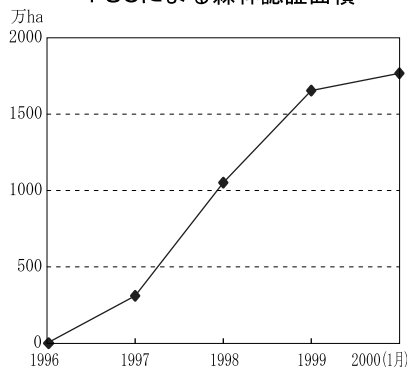
その中で、一九九三年に設立されたFSCは、現在、世界四八カ国の環境NGOや林業関係者、先住民団体等三〇の会員で構成され、国際的な森林の認証制度に関する活動を行っている団体で、森林認証に大きな影響力をもつ組織といえる。図は、FSC認証を受けた森林面積を示したもののだが、近年急増しており今年一月には世界三〇ヶ国で一七六七万haの森林がFSC認証を受けた。また件数は、米国が六九件と最も多いものの、オランダやイギリス等外材依存国や、貴重な熱帯林をもつ南米諸国での取得も増えている。

一方、日本においては今年二月に三重県の速水林業が国内初のFSC認証を取得したほか、高知県の森林組合が現在申請中である。このほか長野県や大分県で取得に向けた取組みが模索されている。

しかし、概して全国的には、FSCを含めて森林認証制度への取組みは低調である。その理由としては、日本では認証森林からの木材が一般の木材と比べてどの程度有利に販売できるのかが明確になっていないことや、林業の採算性がますます悪化している中でコスト増につながる認証取得に二の足を踏むことなどがあげられる。

しかし、世界的な流れとして、自国の森林資源の責任ある利用と保全を行うことが今後ますます必要とされることから、日本においても他者に分かりやすい明確な森林管理が必要となるだろう。そうしたことから、林家が認証制度等を活かして、これまで培ってきた森林経営の技術を科学的に明らかにし、適切な森林管理を行っていることを世間にアピールすることは重要であると考える。(栗栖)

FSCによる森林認証面積



資料) FSC「Forests Certified by FSC-Accredited Certification Bodies」

出典)『平成11年度 林業白書』 p158